

専門学校関東工業自動車大学校

学校関係者評価 報告書

【令和7年度版】

令和8年7月

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価

学校関係者評価は、卒業生・企業等役職員等の学校関係者を選任し学校が実施した令和7年度における自己点検評価の結果に関する評価を行い、教育活動と学校運営の改善に向けた助言を行う。

なお、評価の観点は次の項目による。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策等が適切であるかどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策等が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか

2. 学校関係者評価委員会の実施

令和7年度の自己点検報告書をもとに、学校関係者委員会を開催し、ご意見・ご提案を頂いた。また、学外委員の皆様には基準項目毎に5段階で評価頂き、その結果も含め報告書としてまとめた。

第一回 開催日：令和8年7月8日（水）13：00～15：00

場 所：関東工業自動車大学校 校長室

3. 学校関係者評価委員会出席者(敬称略・順不同)

①評価委員

- ・泰楽 秀一：協 会 埼玉県自動車車体整備協同組合
- ・鈴木 浩和：企業等 株式会社スズキトラスト
- ・関口 秀生：卒業生 (有)関口工業所 社長
- ・関根 哲男：地 域 寮主

②学校側出席者

- ・加瀬 正樹：教頭
- ・青木 隆正：教務部長
- ・小川 淳：教務部マネージャ
- ・松林いづみ：広報部マネージャ

4. 学校関係者意見・提案(評価点)

※評価については4点を適切とし、不足の要因を減点方法にてあらわしている。

評価項目	現状の取組	評価	今後の改善方法（改善内容）
教育理念・目標	・学校の教育理念や目的・育成人物像の重要性に関しては、教職員に十分に浸透しており、その実践についてもおおむね満足できる取組がなされている。 ・日々変化してゆく企業ニーズに対応するべくカリキュラム編成等が適切に構築されている。	3.8	・在校生が将来進む業界から、社会人として基礎教育（ソーシャルマナー）が身についているといわれるような教育の充実を引き続きお願いしたい。
学校運営	・学校運営方針や事業計画については明確に定められている。 ・設置法人や学校そのものの運営は寄附行為や規定類により適切に運営されている。 ・教職員の負担軽減のために、教職員の計画的な採用が急務である。	3.6	・学校見学などにおいて、実習棟、教材車両等は、学校選びの重要なポイントであるため、可能な範囲で充実をお願いしたい。 ・教職員の確保について今後も積極的に取組んで欲しい。
教育活動	・教育目標の設定や編成及び成績評価の仕組みについては、おおむね満足できる水準に達している。 ・学生の多様化による教員の負担軽減の方策が必要である。 ・実践的な職業教育についても後援会企業を軸に就職内定企業を巻き込み体系付けがされていて評価できる水準である。	3.3	・教育課程編成委員会の意見を活用し教育内容の見直しをするとともに、指導する教員への研修も積極的に参加していただきたい。 ・企業との連携による、時代の変化に合った教材を積極的に導入していく。
学修成果	・就職については、自動車業界の幅広い分野から求人があり学習成果が業界のニーズに結びついていることが窺える。 ・資格取得率については概ね評価できる水準である。 ・退学率が若干上がっていることは懸念事項である。学生の状況を正しく把握する必要がある。 ・内部進学者が増加していることは評価に値する。	3.0	・担任と学生との面談時間をしっかりととり、メンタルの状態・到達度の状況を確認し、学年マネージャが掌握する。 ・多様な学生に対し、積極的に声掛けを行なう体制を再構築して退学率の低減を図る。

評価項目	現状の取組	評価	今後の改善方法（改善内容）
学生支援	・就職体制、経済的支援、健康管理及び中学・高校等との連携についてはおおむね満足できる水準に達している。 ・就職活動前の企業見学会を実施し企業への認識を高めるとともに就職へのギャップを減少させていることは評価できる。 ・課外活動、部活動においての活動は、学生を成長させる上で有効と考えられるので、今後も活性化していただきたい。	3.2	・後援会企業に対し、経済的支援を継続的に依頼し協力を得て頂きたい。 ・学生は、学ぶ責任をさらに意識できるようにしていただき、教職員は、育てる責任を意識して活動していただきたい。 ・留学生を中心とした健康管理体制を強化していく
教育環境	・後援会企業との連携により、教材の補充及び教育資料の充実が図れた ・教育環境の整備として、実習場の空調および照明の適正化が図れた。	3.3	・優先順位をつけて、設備・施設・教材の改修を実施していただきたい。 ・修繕費用とのバランスを考え、今後も設備投資を計画していく。
学生の受け入れ募集	・学生募集活動に関しましては、コンプライアンス上は適切に運営が行われている。 ・在校生を積極的に活用したオープンキャンパスの実施は評価できる ・国際サービスエンジニア科の学生希望者が増加していることはとても良いことである。	3.6	・留学生以外の入学定員は充足できていないことから、情報発信提供方法を発信・改善していく必要がある。 ・オープンキャンパス等において、教員及び在校生の声に触れ、入学後のミスマッチを防止して行く。
財務	・財務に関しては、財務基盤、予算収支計画、監査の各項目に関して問題ない。	3.7	・物価高の影響から経費が上がるため、学費の値上げも検討していく。
法令等の遵守	・一括管理システムの導入により、個人情報の管理などを含め、常に教職員に自覚・周知徹底を図っている姿勢から法令遵守等はおおむね満足できる水準に達している。 ・コンプライアンスの確立	3.2	・人員の確保及び教務の分散を図り、労働環境の改善が急務であるため、効果的な方策を検討していく。
社会貢献・地域貢献	・学校教育資源を活用した社会貢献・地域貢献については、近隣中学校と連携した行事へのスタッフの派遣や施設の提供について非常に感謝されている。 ・鴻巣市及び商工会と連携して本校の教育成果を共有できていることは評価に値する	3.6	・鴻巣市及び近隣中学校はもとより、地元地域の方々の行事等についても今後もタイアップをしていきたい。

国際交流	・留学生の受け入れについては良いが、日本語力向上のための勉強会、学生の退学防止についてはまだまだ改善の余地が残っている。 ・留学生と日本人学生との交流を図ることにより、国際的見聞を広める機会を提供していく。	3.2	・日本語力向上の教育を早急に改善していく。 ・留学生のアルバイトなど、生活基盤の安定を図るための教育を関係方面の協力を得ながら進めることを検討していく。
------	--	-----	---